

三陸の近景

⑭

災害公営住宅

「次の暮らしは公営住宅へ引っ越しそうと思っているの」

仮設住宅を1軒ずつ訪問している中で、最近よく耳にする言葉です。次の住まいとして様々な選択肢がありますが、「災害公営住宅」というマンションタイプの住宅に賃貸契約し入居する人々も多くおられます。

ある公営住宅を訪問した時のことでした。敷地内通路にはベンチが設置され、トランクルームも完備、非常に現代的な建物です。玄関や居室にも住民目線でさまざまな工夫が凝らされ、住むことが楽しくなりそうな造りでした。

ところが、入居住民の声を聴くと「とりあえずはねえ」と、浮か



ない様子が目立ちます。「娘に言われてしぶしぶ申し込んだけど、仮設の近所の関係もあるから、公営に移り住んでいい暮らしをしていると思われたくない」と複雑な事情を明かされる人もいました。

「公営は家賃がかかるし、働くことのできる人が入るところ。平日の昼間は誰一人いないよ」と訪問しようとする私たちに声をかけ

てくださる人もいました。

仮設住宅に比べて見た目は立派で、単にうらやむ人や憧れる人が多いことも事実です。しかし、「転居をしてホッとしている人」「かえって困っておられる人」…。実際は1人1人が違う個別の感情をお持ちでした。

「災害公営住宅に住んでいる人」「住宅を再建した人」「仮設にお住まいの人」というラベルを貼って人々の気持ちを画一的に理解していないかと、反省しました。

岩手県で現在計画されている公営住宅がすべて完成するのは、あと2年半、2017年3月です。その頃は、仮設住宅をはじめとする住まいの環境は一体どのようなになっているのでしょうか。

予定通りに進むのか、住民の気持ちはどうなのか、今はまだ見通せない状況にあることだけは確かです。(本願寺派総合研究所研究員・金澤豊)